

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX011-210-5826

北海道新聞ホームページ「NIE」(<http://nie.hokkaido-np.co.jp/>)でバックナンバーから閲覧できます



2021年のNIE全国大会(札幌開催)の大会スローガンを正式決定した日本新聞協会NIE委員会=2月27日、日本プレスセンタービル(東京都千代田区)

新しい学びを創るNIE 家庭、教室、地域をむすぶ

全国大会のスローガン

	開催地	スローガン
第6回	神戸	21世紀をひらくNIE
第7回	札幌	踏み出そう新世紀NIE～北の大地からの発信～
第8回	松江	明日に生きる力はぐくむNIE～学校・家庭・地域とともに～
第9回	新潟	活字文化を大切に 発展させようNIE
第10回	鹿児島	広げよう 深めようNIE～豊かな学びを求めて～
第11回	水戸	学校から家庭・地域へ広めようNIE
第12回	岡山	学びあい 世界を広げるNIE(教育に新聞を)
第13回	高知	こどもが拓くNIE 地域に根ざす学び求めて
第14回	長野	わかる ひろがる つながるNIE
第15回	熊本	学校から社会へ～学びを深め、暮らしに生きるNIE
第16回	青森	読み解く力 新聞で一学校・家庭・地域からNIE
第17回	福井	「考える人」になる いかそう新聞 伸ばそう生きる力
第18回	静岡	「学び」発見一ふじのくから「やさしいNIE」
第19回	徳島	よき紙民になる一子どもに意欲を持たせるNIE活動
第20回	秋田	「問い」を育てるNIE～思考を深め、発信する子どもたち～
第21回	大分	新聞でわくわく 社会と向き合うNIE
第22回	名古屋	新聞を開く 世界をひらく
第23回	盛岡	新聞と歩む 復興、未来へ
第24回	宇都宮	深い対話を育むNIE
第25回	東京	ともに生きる 新聞でつながる
第26回	札幌	新しい学びを創るNIE 家庭、教室、地域をむすぶ

※全国大会は1996年に東京で第1回を開催。以後、毎年開かれている。スローガンは第6回神戸大会(2001年)から設けられた。

札幌全国大会 スローガン決まる

日本新聞協会NIE委員会が2月27日、東京都千代田区内幸町の日本プレスセンタービルで開かれ、2021年夏のNIE全国大会札幌大会のスローガンを正式決定した。

スローガンは「新しい学びを創るNIE 家庭、教室、地域をむすぶ」。

NIE委員会の席上、大会主管社となる北海道新聞社の小林亨取締役企画室長は「家庭、学校、地域を軸とし、新しい学習指導要領

を念頭に、教育界でのデジタル活用など新たな動きにも目を向けた」とスローガンの基本認識を説明した上で、「急激に複雑な変容の時代に対応できる生きる力の育成が、今求められている。2020年度から順次導入が始まる新しい学習指導要領は、多様な情報を取捨選択し新たな価値を見いだす学びを目指しており、教材としての新聞の重要性がより明確に打ちだされている」と述べ、大会を通して

NIE全国大会札幌大会

5月22日、実行委設立総会

て新聞の価値を強く訴えていく考えを示した。

NIE全国大会札幌大会は2002年以来19年ぶりに2度目の開催で第26回目。来年8月5日(木曜日)に札幌市中央区北1西1の札幌文化芸術劇場hitata(札幌市民交流プラザ内)で開会式、記念講演、パネ

ルディスカッション等を実施、翌6日(金曜日)は同市北区北17西8の北海道大学高等教育推進機構を会場に公開授業、実践発表、分科会を行う。

今後、主管団体の北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長・道内の通信社2社、新聞社11社と道教委、札幌市教委、NIE実践教師らで構成)と主管社の北海道新聞社を中心に細部を検討する。

に向け、大会実行委員会の設立総会が5月22日、主管団体の北海道NIE推進協議会の総会が翌23日、いずれも北海道新聞本社(札幌)で開かれる。二つの機関決定を経て、大会準備が各方面で本格化する。

大会実行委は行政や学校関係者、主管社の北海道新聞社、主管団体などNIE関係機関で構成される。当日は大会実行委員長が選出され、これが準備作業の正式な旗揚げとなる。また8月5、6日の2日間の開催日程や大会スローガンの記念講演などの概要、組織体制などが主要議題となる見通しだ。

北海道NIE推進協議会総会では大会実行委を支える主管団体としての役割を踏まえ、主管社の北海道新聞社と連携しての活動方針が提示される予定だ。

若手加え組織的な活動に



道教大旭川校の学生を指導する福澤秀会長=2019年6月14日

昨年5月に発足した上川・旭川NIE研究会(会長・福澤秀富良野市立樹海中学校長)が、本年度の活動を終えた。初年度は若手教諭も募り、組織的な活動を目指した。

メンバーは小中高校の教諭ら21人。旭川・上川地区でのNIEの普及、発展を目指した活動は、これまで教諭個々の力量に頼る部分が多かった。研究会の設立は、2021年8月にNIE全国大会が札幌で開かれることも機運となった。

本年度は、北海道NIE推進協議会の上川地区セミナー(旭川)で、メンバーの若手教諭が授業公開や実践を発表。道北小中学生新聞スクラップコンクールの審査にも協力した。

北海道教育大学旭川校では、教員志望の学生に講義。新聞の社説を表現を生かしたまま短縮する縮約や、記事のSDGs(持続可能な開発目標)の17目標の視点で読み解き、物事を多角的に見ることの重要性を体験させた。指導した福澤会長は「これらは将来の授業作りに必ず役立つ」とNIEの意義を伝えた。

福澤会長は「新年度はNIEを若い先生にもっと広めたい」と意欲的だ。

上川・旭川研究会が発足1年

NIEさらに広がりをおアドバイザー意見交換



札幌でのNIE全国大会に向けた意見も出たアドバイザー会議

2019年度の北海道NIEアドバイザー会議が1月7日、北海道新聞本社で開かれ、兼間昌智・北海道NIE推進協議会副会長やアドバイザー16人、地区フェロー1人が出席した。

会議では各アドバイザーが自校での実践、地域での研修会、各種教員団体との

連携などの活動報告をした。今後の活動については、「アドバイザー自らが実践するよりも、他の先生にやってもらう方がNIEが広がる」「実践とともに理論構築が必要」などの意見が出た。

21年8月のNIE全国大会札幌大会については、同

協議会事務局が大会スロージャンや公開授業、実践発表などの準備状況を説明。アドバイザーから、「公開授業や実践発表の準備段階からサポートしたい」「教科としてだけでなく、学校全体の取り組みの実践報告があってもいいのでは」との声もあった。

道内の4個人2校入賞 地区表彰は4賞計6人

「いっしょに読もう」

日本新聞協会主催の第10回「いっしょに読もう!新聞コンクール」の審査結果が2019年11月25日に発表され、道内から4個人2校が入賞した。これに合わせ、北海道NIE推進協議会が北海道地区表彰として4賞計6人を選定した。コンクールには小中高生と高専生から計5万7561編(うち道内は735編)の

応募があった。

新聞協会による表彰と地区表彰の受賞者は次の通り。(敬称略)

▽日本新聞協会表彰(道内分)

【奨励賞】馬場謙丞(旭川市立愛宕中1年)、大浦加純(札幌南高2年)、上田太陽(旭川市立東光中2年)、出口真唯(函館西高1年)【学校奨励賞】函館市立北中、根室管内別海町立野付中

▽北海道地区表彰

【道教委教育長賞】井下田温美(千歳市立高台小3年)【札幌市教委教育長賞】高杉珠生(札幌・北海高1年)【北海道NIE推進協議会会長賞】外尾幸路(夕張市立ゆうばり小3年)【北海道地区奨励賞】工藤凜(江別・立命館慶祥中2年)、鈴木風奏(江別・立命館慶祥高1年)、阿曾雷斗(札幌・北海高1年)

日経新聞の斉藤さん 経済紙の読み方解説

研究会冬季研修会

北海道NIE研究会(兼間昌智会長)の冬季研修会が1月9日、北海道新聞社NIEプラザで開かれた。日本経済新聞社札幌支社営業部販売グループ次長の斉藤一郎さんが「日本経済新聞 読み方講座」読み方のコツをつかもう」をテーマに経済紙の記事の特徴などを話した。写真II。



斉藤さんは、新聞記事は結論を先に書く逆三角形を紹介した。

タイトルになっていることを紹介。その上で、「見出しとリード(前文)を読むだけで内容が5割以上分かる」と話し、見出しから興味のある記事を見つけ、まず拾い読みすることを薦めた。

この日の日経紙朝刊の中から、経済の大きな流れを捉える記事や、個別企業や業界の情報をつかむ記事などを具体的に示しながら、経済紙ならではの読み方も紹介した。

また、「社説はテーマを

見るだけで現代の問題点が分かる」「新聞は生きた教科書」と話し、タイムリーな話題で生徒と議論することがこれから大切になってくると、学校などでの新聞活用を呼びかけた。

研修会には小中高校の教諭ら約30人が参加。学校図書館・授業での新聞活用方法や、高等養護学校や特別支援学級でのNIEの取り組みなども紹介された。

◇おこたわり「NIE実践奮闘記」は休みました。

各地で地区セミナー

北海道NIE推進協議会主催の地区セミナーが本年度の日程を終えた。昨年10月から12月までに各地で開かれた計5回のセミナーを紹介する。

食品表示の意義学ぶ

札幌

第4回札幌地区セミナー兼第24回北海道NIE研究会全道大会が10月15日、札幌市立月寒小で開かれた。同校の南波健一教諭が食品表示に関する記事を使った5年社会の授業を公開した写真Ⅱ。

南波教諭は道内のスーパーでの食品の産地偽装に関する記事を使った。見出しの一部を隠して配布し、見出しを考えさせる中で、食

新聞記事を深掘り

オホーツク

第17回オホーツク地区セミナーが10月30日、網走市の網走南ヶ丘高で開かれた。宮城雄大教諭が3年生の授業を公開。生徒は、新



品表示の大切さは生産者と消費者、双方の立場から考えることが重要であること



聞記事のニュースをさらにインターネットなどで深掘りした成果を発表した写真Ⅱ。

生徒約30人が班別で、与えられた四つのニュースから一つを選び調べた。ノーベル賞を選んだ班は、直前に化学賞受賞が決まった吉野彰さんのリチウムイオン電池開発を「社会的な発展に貢献した」と結論づけた。ラグビーワールドカップを選んだ班は、競技ルールや歴史などを発表した。大空・東藻琴小の尾中基浩、遠軽・南中の齊藤えり両教諭が新聞を読んだ感想を作文にしたり、エッセイを投稿したりする実践を報告した。

将来の夢を考える

渡島

第18回渡島地区セミナーが11月27日、函館市立八幡小で開かれ、渡島管内の小中高の教員約20人が参加した。

同小の栗本友佳教諭が、将来の夢の実現をテーマに3年生道徳の授業を公開し

を導き出した。また、旭川市立愛宕中の武井翔教諭と札幌新陽高の細川凌平教諭がそれぞれ実践発表した。

北海道NIE推進協議会と北海道NIE研究会の主催。約40人が参加した。

模擬投票 中学生が村長選ぶー 石狩・新篠津中

第6回石狩地区セミナーが11月12日、新篠津村立新篠津中で開かれ、石狩管内の小中高校の教諭ら約20人が参加し実践例を学んだ。

同中の富久尾崇教諭による3年生の社会科授業「誰を村長に選ぶべき?～新聞記事を参考にした政策づくりと模擬投票」が公開された=写真=。授業では生徒が四つの政党に分かれ、新聞記事を参考に政策を発表、全員で投票した。実践発表では北広島市立北の台小・和田恭幸教諭が複数の新



聞記事を通して多様な切り口を学ぶ社会科授業を、野幌高・鈴木幸恵教諭が古典の授業への新聞記事活用例をそれぞれ報告した。

た写真Ⅱ。栗本教諭は元プロ野球選手の桑田真澄さんの中高生時代を振り返る



記事などを紹介。「どんな努力をしたのか」と問いつけ、児童から「つらいこと

があっても諦めず前向きに頑張る」などの考えを引き出した。

ほかに函館市立亀田中の綿谷魁教諭、森高の菅野真文教諭が実践発表した。

消費増税どう捉える

上川

第19回上川地区セミナーが12月10日、旭川市立末広北小で開かれ、同校の穂刈彩花教諭が6年社会の授業を公開した写真Ⅱ。

北海道NIE推進協議会、上川・旭川NIE研究会の主催。教員ら約40人が参加した。

穂刈教諭は、国の予算の収支を示す資料のほか、複数紙の消費税増税に関する記事を使った。児童を国民、議員、内閣の3グループに分け、増税による価格変化

新コーデイナーに上村尚生さん

地区セミナー 全国大会準備

北海道新聞社のNIEコーデイナーに4月1日、元小学校長の上村尚生さん(62)写真Ⅱが就任する。NIE歴二十数年の経験を生かし、北海道NIE推進協議会の地区セミナー開催をはじめ、2021年札幌での全国大会の準備などに取り組む。上村さんは「経験を若い先生に伝え、ネットワークを広げたい」と意欲的だ。上村さんは元社会科教



論。札幌市内の複数の小学校校長を歴任し、星置東小学校長を最後に2年前に退職。北海道NIE研究会会長も務めた。「新聞は教材の宝庫」と、授業に取り入れ、NIEの全道大会で授業を公開した経験もある。校長時代には教員にNIEを働きかけた。「NIEは教科横断的に取り組める」とNIEを推進する。



富良野市立樹海中の吉田雅風教諭と旭川明成高の野口なな教諭がそれぞれ実践発表を、旭川市立嵐山小中の小林直樹教頭が情報提供を行った。

デジタルにない感動



1959年の毎日新聞の紙面。「統合版」の左肩の「団体一位は潮陵高」の見出しの記事が英語弁論大会の記事

紙の記憶

毎日新聞北海道報道部長

杉尾 直哉

「60年前の新聞は残っていませんか」。昨年10月、一人の男性から突然、毎日新聞北海道報道部に電話で問い合わせがあった。「自分のことが掲載された」という。

毎日新聞社主催で札幌で開かれた「英語弁論大会」の記事を閲覧したいのだという。78歳の男性の記憶では、開催日は1959年6月28日ごろで翌々日に記事が掲載された。優勝したの

は自分だったという。北大の講堂で開かれ、審査員には米国のマサチューセッツ工科大の教授もいた。自分の演題は「Space My Dream」(宇宙旅行が私の夢)。その2年前にソ連が初めて人工衛星に成功していた。「当時の宇宙開発に触発されました」。男性は生き生きと話した。記憶は鮮明だった。

た。毎日新聞が北海道で印刷を開始したのが同じく60年前の59年。それ以降、地元で刷られた紙面が冊子にして保存してある。その年の6月分を納めた冊子をめくっていると、29日付紙面に「高校英語弁論大会」の記事があった。3段見出しで、当時、高校3年だった男性のことが書かれてあった。「初出場で、私の夢は宇宙旅行」と題して時代のトピックを高校生らしい情



さて困った、と思った。毎日新聞は、過去の紙面をデジタルイメージとしてデータベースに保存しているが、北海道など地方で発行された紙面の場合、古い紙面データは蓄積されていないのだ。「ひよっとして」と思い、毎日新聞北海道支社の「紙庫」と呼ばれる倉庫に入ってみ

編集後記

○…2020年の春を、子どもたちはどう記憶するだろう。新型コロナウイルスの感染拡大で、年度末の学校生活は混乱を極めた。突然の臨時休校。そして延長。北海道の多くの小中学校は、休校が春休み前までの約1カ月間にも及んだ。
○…十分な準備のないままの休校だった。学校生活の長期中断に伴い、心のケアの必要性が指摘された。休校中の学習課題を用意できなかった学校もあり、学習の遅れが懸念された。健康や学習状況を把握するため、児童生徒を複数回に分けて登校させる「分散登校」も行われているが、懸念は払しょくさ

れているのだろうか。
○…予定された学校行事も次々と中止や内容が変更された。在校生らが卒業生を送る催しを中止した中学校もあった。卒業式は多くの市町村が在校生と保護者を出席させなかった。学校は「心に残るように」と準備に苦心した。それでも、一生に一度の式典を「ちょっと寂しかった」と言う生徒もいた。卒業生の子を持つ私自身、「仕方ない」と「でも」が堂々巡りした。
○…高校スポーツも揺れた。高体連の全国大会は全て中止。センバツも例外でなく、関西から「春の便り」はついに届かなかった。もうすぐ4月。教室は落ち着きを取り戻しているだろうか。(坂)

「はがき新聞」体験 表現力向上に有効 日高研究会が学習会
日高NIE研究会(盛永美樹会長)の学習会が1月18日、日高管内日高町立門別中で行われた。同管内の小中学校教諭ら約20人が、「はがき新聞」づくりなどを通して、児童・生徒の思考力や表現力向上への方法を学んだ。
「はがき新聞」づくりは、作文の得意、苦手関係なく取り組め、児童・生徒の表現力向上に有効な実践。NIEアドバイザーで、十勝管内本別町の勇足小教頭の池田圭子さんが講師を務めた。



た。基本的なレイアウトなどの説明を受けた後、参加者は色鉛筆を使ってはがき大の用紙に思い思いの文章やイラストを書き込んだ。写真Ⅱ。参加者からは「授業に取り入れたい」などの感想が寄せられた。